

第2回 仙台市総合計画審議会議事録

日 時	平成30年11月28日(水) 18:30~20:30
会 場	仙台市役所2階 第一委員会室
出席委員	阿部一彦委員、阿部重樹委員、飯島淳子委員、岩間友希委員、姥浦道生委員、遠藤耕太委員、遠藤智栄委員、奥村誠委員、小野寺健委員、折腹実己子委員、柿沼敏万委員、鎌田城行委員、菊地崇良委員、小岩孝子委員、今里織委員、今野彩子委員、今野薫委員、榊原進委員、佐々木綾子委員、佐藤静委員、庄子真岐委員、菅井茂委員、竹川隆司委員、舘田あゆみ委員、永井幸夫委員、浜知美委員、舟引敏明委員、やしろ美香委員、渡邊浩文委員 [29名]
欠席委員	中坪千代委員 [1名]
仙台市(事務局)	福田まちづくり政策局長、梅内まちづくり政策局次長、細井政策企画部長、松田政策企画課長、柳沢政策企画課主幹
議 事	1 開会 2 議事 (1) 本市の総合計画の沿革と市政のあゆみについて (2) 本市の将来見通しと主要な論点について (3) 新総合計画における都市像と施策の方向性について (4) その他 3 閉会
配付資料	1 本市の総合計画の沿革と市政のあゆみ 2 政令指定都市の基本構想・基本計画 3 分野ごとの将来見通し 4 分野ごとの主要な論点 5-1 新総合計画における都市像と施策の方向性(イメージ図) 5-2 新総合計画における都市像と施策の方向性(ワークシート)

1 開会

○奥村誠会長

ただいまから「第2回仙台市総合計画審議会」を開会いたします。
議事に入る前に定足数等の確認を行います。事務局から報告をお願いします。

○細井政策企画部長

最初に前回の審議会をご欠席だった委員の皆さんをご紹介させていただきたいと存じます。

最初に鎌田城行委員でございます。

続きまして竹川隆司委員でございます。

永井幸夫委員でございます。

次に、定足数でございますけれども、本日29名の委員の皆さまにご出席をいただいて

おりますので、定足数は満たしていることをご報告いたします。
以上でございます。

○奥村誠会長

ありがとうございます。次に会議の公開、非公開の取り扱いですが、前回ご審議いただいたとおり、公開といたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(了承)

○奥村誠会長

それでは、公開としたいと思います。

続いて、本日の議事録署名委員を指名したいと思います。前回は阿部一彦委員でしたので、今回は名簿順で次の阿部重樹委員にお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

事務局から資料等の確認をお願いします。

○細井政策企画部長

資料の確認をさせていただきます。まずは座席表、それから次第、資料一覧、そして、資料1から資料の5-1、5-2までの資料一式を机の上に置かせていただいております。それから事務局で前回お預かりをいたしました資料をファイルに綴じたものも置かせていただいております。ご確認の方よろしくお願ひいたします。

○奥村誠会長

不足等ないですね。本日も皆さんにご協力いただきまして、実りある議論ができればよいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

議事に入ります前に、前回の第1回審議会でご議論いただきました新総合計画の基本的な事項について、改めて事務局から説明があるとのこと。事務局からよろしくお願ひします。

○松田政策企画課長

それではご説明させていただきます。前回の資料の補足でございますので、恐縮ですが、お手元にある青のドッチファイルの中の第1回資料5「新総合計画について」をご覧いただきたいと思ひます。

前回の議事におきまして、新総合計画の基本的な事項としまして、新総合計画は基本計画、実施計画の2層構造で策定をする。現基本構想で定めている都市像については新基本計画と一体的に策定をする。そして、基本計画の計画期間は10年間とする。この3点につきまして、ご確認をいただいたところでございますが、その後、議事におきまして、これに関連するご意見が出されたところでございます。

具体的には、総合計画の策定目的をもう少し明らかにというところ、そして、基本計画

の10年間という期間の合理性、それから総合計画の位置付け、具体的には行政計画なのかというところのご意見を頂戴したところでございます。これらにつきましては、事務局としても説明が十分ではなかったところもございますので、改めてご説明申し上げます。

まず、総合計画を何のために策定するのかという点についてでございますが、総合計画、これは目指す都市像とその実現に向けた施策の方向性を示すまちづくりの指針でございます。これからのまちづくりを市民や企業、大学やNPOなどさまざまな主体の方々とともに進めていくためには、総合計画を策定して掲げ、その中で目指すべき都市像や施策の方向性をお示しし、共有することが必要と考えているということが、策定の理由となっております。

次に、基本計画の期間が10年間でよいのかという点でございます。これにつきましては、他の委員の方からも、時代の流れが速く、先を見通すのが難しいというご意見を頂戴したところでございます。これにつきましては、先ほどのご説明にも関連いたしますが、多様な主体の方々がまちづくりに関わっていただくという観点におきましては、まちづくりの方向性を一定程度、長期的に見通しながら共有することが必要であると考えております。

具体的には、仙台市は都心部の再構築であるとか、それから郊外団地のまちづくりなど、まだまだこれから相当程度の期間をかけて進めなければならない課題等もございますので、やはり長期的なビジョンが共有されることが大切ではないかと思っております。そうした時に、10年という期間はやはり必要であろうと考えているところでございます。

一方で、時代の流れに合わせて対応していくという視点も重要でございます。10年間の計画期間でありながらも、速い時代の流れに合わせてフレキシブルに対応できるようにする必要があるのではないかとご意見も前回ございました。事務局としても、まったくそのとおりというふうに思っております。例えば、現在仙台市で策定を進めております経済の活性化、それから交流人口の拡大に向けた戦略、こちらも基本計画の大きな方向性に沿った上で、それぞれの戦略が3年から5年の期間における具体的な取り組みを検討しているという状況でございます。

このように、総合計画ではビジョン、そして施策の方向性を共有した上で、事業単位の計画というレベルでは、実施計画や、毎年度の予算編成などでフレキシブルに対応していきたいと考えているところでございます。

次に、誰のための計画かというご意見がございました。これは言うまでもなく企業やNPOなど多様な主体も含めた仙台市民のためということになるかと思いますが、広くは東北のためということもあろうかと思っております。

最後に、総合計画は行政計画なのかという点につきましては、今ほどご説明しましたように、これからのまちづくりは、行政だけではなく、さまざまな方々とともに進めていく必要があると考えております。仙台市が策定するまちづくりの指針という意味では、総合計画は行政計画の位置付けにはなりますが、今回の策定を機に、さらに多様な主体の方々のまちづくりへの参画が進むことを期待しております。そのために前回の審議会でも、ご説明しましたとおり、積極的に市民参画の機会を策定の過程で作らして、若い世代を

含めて市民の方々のご意見もできるだけ取り入れて、共に策定してまいりたいと考えております。

説明に不足がありまして、大変申し訳ありませんでした。

○奥村誠会長

ありがとうございます。新総合計画の基本的な事項ということでは、議事では一旦皆さまからご了承いただいたという形になっておりましたけれども、大事なところですので、確認ということで再度ご説明いただきました。

ただいまの説明について、質問がありましたら。どうでしょうか。大丈夫でしょうか。

○菊地崇良委員

ただいまご説明がありまして、おさらいしたところでありますが、ご説明の中に「多様な主体の仙台市民」というお話がございました。確かに仙台市に所在する方は多種多様でございますが、仙台市の条例、市民協働条例の作成にあたって、この市民はあくまでも地域住民が主体であるという地方自治の原則に則って、その上でこの中に行き交う方々もとらまえて、対象とするとやってきてございますので、この部分については原則として、仙台市は踏襲しているという認識の下にお話を進めていただきたいと思いますし、そのようなことでよろしいか、確認をしたいと思います。

○奥村誠会長

お願いします。

○松田政策企画課長

ご指摘の「仙台市民」とお話しした時の「市民」というのは、基本的には仙台市に住所を置く方というのが基軸である、原則であるというところは踏まえた上で、実際に仙台市に住所を置かなくても、通勤通学で仙台市により深く関わっていただいている方々であるとか、市民の活動をされている方々、そういった方々も含めて、現在、協働のまちづくりを進めているというのは、今、菊地委員のおっしゃるとおりでございますので、そういった主旨も踏まえた上での発言と捉えていただいで大丈夫でございます。

○奥村誠会長

ありがとうございます。その他ありますか。

○飯島淳子委員

説明の補足を頂戴しましたけれども、地方自治法の基本構想の策定義務が廃止されたことを受けて、さまざまな工夫が地方公共団体でなされているところですので、仙台市もこの機会に総合計画のあり方を根本的に見直すこともありうるかと思ひ、前回発言いたしました。

先進事例の紹介や調査結果がなされている中、もちろんそういうことを踏まえた上で、

基本的には従来型を踏襲するという選択をされたとは存じますが、せつかくの機会にもう少し議論する余地もあるのかと思い、意見を申し上げます。

○奥村誠会長

ありがとうございます。何がしかの話を進めていて、やっぱり駄目だとなったら、その時に考えればいいという感じもします。基本的には、これぐらいの線でご意見いただきながら議論を進めるという「枠」としてご了承いただいていることですので。「やはり違うんだ」ということをどうしてもということでしたら、ご発言いただくということでもよろしいかと思うのですが。議論を始めるためには枠が必要です。まずは、前回共有されたところを出発点として議論したいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

他によろしいですか。この件については。

では、次にもう1点、11月25日に開催されました市民参画イベント「みんなのせんだい未来づくり」について事務局から報告があるとのこと。事務局からお願いします。

○松田政策企画課長

ご報告いたします。こちらに関して、今日は資料はございません。口頭のみでの報告となります。

「みんなのせんだい未来づくり」につきましては、11月25日に国際センターで開催をいたしました。当日のパネルディスカッションでは、ファシリテーターに遠藤智栄委員、そして、パネリストのお三方のうちのお一人に佐々木綾子委員もお迎えしまして、子どもの居場所づくり、また、若者の人材育成、そして、観光と地域づくりなど幅広い分野の話題を通じまして仙台のよいところ、まちづくりにおける課題は何かといったテーマで掘り下げていきました。その後の市民によるワールドカフェでは、折腹副会長にもご参加いただきましたほか、姥浦委員、今野彩子委員、そして、菊地崇良委員にも足をお運びいただいたところでございます。お忙しい中、本当にありがとうございます。

当日は118人の市民の方の参加がありまして、「せんだいの未来がどんな未来だったらよいか」ということについて自由に話し合ってくださいました。出されたご意見としては、例えば、「大都市でありながらも、ゆるやかな地域コミュニティを持てるまち」であるとか、「高齢者の外出機会が多く、活躍できるまち」、また、「若者が就職したくなる、魅力的なまち」など、非常にたくさんの意見が出されたところでございます。

こちらは年内に報告書をまとめまして、次回の審議会には、正式にご報告したいと考えております。

以上です。

○奥村誠会長

ありがとうございます。遠藤委員さん、それから佐々木委員さん、当日にご参加いただきましたその他の委員の皆さま、大変ありがとうございました。よろしければ遠藤さんと佐々木さんと一言ずつ感想をいただければと思いますが。

○遠藤智栄委員

ファシリテーターを担当させていただいた遠藤と申します。当日ご参加いただいた委員の皆さん、ご準備いただいたスタッフの皆さん、どうもありがとうございました。

何名かの知人も参加して下さっていましたので、いろいろご感想を聞きました。ランダムな席配置、だいたい4人ぐらいの席配置でしたので、自分の考えとはまったく違う価値観ですとか考えを持った方と色々な意見交換ができて、とても興味深かったというお話ですとか。ご参加された皆さんも、「30年を見据えた仙台の都市像、ありたい姿」ということで、その日、その時で考えていただきました。それが結構前向きな、本当に参考になるご意見がたくさんありましたので、報告書を楽しみにしているところです。

2つ目の問いでは、「その未来を達成するために、自分や他の人たちが何ができるか」ということも書いていただきましたので、そういった意味では「市役所にやってよ」ということではなくて、「自分もやるし、いろんな方ともやる」というような機運づくりもできたのではないかなというふうに思います。

そして、その催しを踏まえて考えますと、この審議会もビジョンを語る回、構想、基本計画を詰めていく回が後にありますので、タームタームで市民には、いろんな団体の皆さんから、「そういったありたい姿」ですとか、具体的な取り組みとか、そういったことを期間を設けながら幅広く市民の方からも頂戴をして、それを審議委員の皆さんも拝見しながら、多様な観点から作っていくという方法もあるのではないかと感じた次第です。

○奥村誠会長

ありがとうございます。では、佐々木委員さんお願いします。

○佐々木綾子委員

パネルディスカッションで、恐縮ですがお話をさせていただきました。

当日、さまざまな思いの方がご参加されまして、それぞれの立場からこういった仙台のあり方がいいなという話がたくさんありました。遠藤さんのファシリテーション、ワールドカフェという対話を重ねていく中、自分だけの思いではなくて、いろんな方々の意見を聞きながら、総合的にどういったまちづくりがいいのかということを考え、市民の方々の視点がどんどん変わっていったのがとても印象でした。

前回の審議会でもあったように、多くの市民の方々からどうやってご意見をいただけるかはとても重要なことかなと思っています。既存の方法だけではなく、より多く声を集めていく、また、何か対話を重ねていく、そういった機会があると、総合計画にも反映されるのではないかと考えております。

○奥村誠会長

ありがとうございます。今後もこういう市民参画の機会というのは大変重要と思います。特にいろんな世代の方の意見が反映されるようにしていきたいと思います。

2 議事

(1) 本市の総合計画の沿革と市政のあゆみについて

○奥村誠会長

それでは本日の議事に入りたいと思います。

本日の議事は3つあります。

(1) 本市の総合計画の沿革と市政のあゆみについて

(2) 将来見通しと主要な論点について

(3) 新総合計画における都市像と施策の方向性について、です。

(1) と (2) は、事務局の方からまずご説明いただいて、それに対する個別の質疑ということになりますが、(3) で皆さんにご意見をいただくというようなことを考えておりますので、よろしく申し上げます。

まず議事の第1「本市の総合計画の沿革と市政のあゆみについて」です。これまで本市の総合計画がどういう沿革をたどってきたのか。当時の背景と合わせて、ご説明いただきます。よろしく申し上げます。

○松田政策企画課長

それでは、本日の資料の資料1をご覧ください。A3横の資料になっております。こちらは都市像と施策の方向性の議論を始めるにあたりましての参考資料ということで、これまでの本市の総合計画における都市像についてまとめたものでございます。また、総合計画の沿革の下に、市政のあゆみとしてその時々時代の背景を表すトピックを掲載しまして、仙台市の都市個性ごとにそのトピックを色分けしております。これは、総合計画の都市像をご覧くださいますと、時々時代の背景が反映していることや各総合計画の都市像については、仙台市の都市個性を切り口にして打ち出している面が伺えますので、参考としてあゆみの方を掲載しているところでございます。

上段の総合計画の沿革の都市像をご覧くださいたいのですが、向かって左が時代の古いもの、向かって右に行くに従って今のものに移っていく形になりますけれども、左から3つまでのところ、「仙台市総合計画2000」、ここまでは「百万都市を目指す」、そして、「政令指定都市の実現を目指す」などのいわゆる拡大基調の時代背景を反映している都市像となっております。その1つ右隣の「仙台市基本構想21」のところ、「仙台21プラン」がある左から4つ目の箱、こちらにつきましては、総合計画の中でコンパクトシティを打ち出した計画となっております。

また、都市像の冒頭に「市民主体の創造的な都市づくりを基調に」というところがございますけれども、こちらは、下をご覧くださいと、市政のあゆみのピンク色のところに「市民活動サポートセンター開館平成11年」とありますけれども、「市民協働元年」と位置付けているところでもございまして、こういったところを反映した部分が都市像にも表れているところでございます。

そして、その右隣が今の基本構想、都市像となっております。現計画は人口減少局面を見据えた初めての計画となっております。成熟社会における量から質への転換を打ち出したものとなっております。持続可能という視点を掲げたところも、また、新しい視点と

なっております。これからは、そのさらに右隣、〈想定〉と書かれてある新しい都市像についてご議論いただきたいと思っております。

資料1については以上になります。

続きまして、資料2についてご説明をいたします。こちらも参考資料でございます。他都市の基本構想、基本計画などに掲げてあります都市像と施策の方向性についての概要をまとめたものとなっております。先ほど、飯島委員からもお話しありましたが、基本構想、基本計画の立て方というのは、各都市とも多様化の動きが始まっているところでございまして、例えば、1枚目の札幌市、仙台市の隣にあると思えますけれども、こちらは、基本構想を策定せずに戦略ビジョンを策定しておるという形をとっています。また、例えば2枚目の真ん中に大阪市があります。大阪市は基本構想を掲げているものの、その下の基本計画がなく、成長戦略を策定しているなど、指定都市の状況も、また、まちづくりの指針の定め方も、若干多様化が始まっているというところでございます。

いずれの都市につきましても、やはり目指す都市像を掲げて、その実現に向けた施策の方向性を何らかの形で示しているという点は、共通しているものと考えております。

説明は以上です。

○奥村誠会長

ありがとうございました。ただいまの説明について、質問がありましたらどうぞ。どうでしょうか。

ちょっと考えていただいて、もしありましたら後でお願いしたいと思います。それではすみません、先に進んで、発言の機会は後で用意します。

(2) 本市の将来見通しと主要な論点について

○奥村誠会長

続いて、議事の第2「本市の将来見通しと主要な論点について」です。

事務局から説明をお願いします。

○松田政策企画課長

それでは、資料3と4についてまとめてご説明をします。

まず資料3の「分野ごとの将来見通し」をご覧ください。表紙をおめくりいただくと、表紙の裏面にこの資料の作成趣旨を掲載させていただいております。人口減少、少子高齢化が進んで行く中で、21世紀半ばにおける本市の状況を見据え、今後の施策の方向性を検討するために作成させていただいたものでございます。その内容は、本市の現状や趨勢、そして、将来推計などの各種データ、こちらは本市に特化したデータや独自データがない場合は、国全体に係る国のデータなども用いながら、トレンドを見通せる範囲内で見通して分野ごとにまとめたものでございます。表紙の次に目次がございます。こちらへ分野ごとの見通しをそれぞれの分野ごとにまとめておりますけれども、概ね3つから4つ程度のトピックスでお示しをしております。各分野とも細かなデータ等々はたくさんあるのですが、この資料の作成に当たりましては、各分野のこれからの主なトレンドをまず分かりや

すく示すものであること、そして、今後の施策の方向性を検討する上で影響が大きいのではないかと考えられるものという視点でまとめたものでございます。

目次をおめぐりいただきますと、巻頭ということで、横になりますけれども、仙台市の将来人口と高齢化率を1枚として年表形式でお示ししております。2060年までの人口や高齢化の推移をお示したものでございまして、これら人口と高齢化の推移というのは、ほぼすべての分野に影響がある基礎的な指標ということで、このような形で特出しで掲載しております。

1ページ以降がそれぞれの分野ごとに見通しをまとめているところでございますが、本日、すべてをご説明するお時間がないので、1つを取り出してご説明をしたいと思います。11ページをご覧くださいと思います。11ページが「高齢・医療・障害」の分野になっております。11ページの表紙には、この分野の見通しのトピックを4つお示ししております。そして、12ページ以降に、この4つのトピックに関連するデータや、今後の見込みを掲載しております。本市のデータもあれば、国のデータもあり、推計データがない場合は、これまでの推移からこれからの推移を予想するというような形で見通せる範囲でデータを掲載しております。

そして、この分野の最終ページである16ページでございまして、さまざま掲載させていただいた見通しデータに基づきまして、トピックをまとめております。1つ目のトピックが高齢人口の増加ということに着目をしたものでございます。2つ目のトピックが高齢化に伴う医療・介護給付の増加に着目をしたトピック、傾向、そして、3つ目のトピックが高齢・障害の両方に関わる傾向であります介護人材の不足について、そして4つ目は、医療の中でも救急出動の増加の傾向をお示ししております。このような形で分野ごとにまとめておるものでございます。

見通しは分野ごとにまとめておりますが、視点を変えると、他の分野にも影響し合うトピックも実は多くございまして、例えば、高齢者を社会の担い手として捉えることができますし、また、医療・福祉を産業の1つとして見ることもできます。こういった観点で、また、ちょっとページが飛びますけれども、43ページをご覧くださいと、こちらが経済・産業分野の最終まとめページとなっておりますけれども、一番上の労働力人口のトピックの中では、2つ目の項目としまして、今後、労働力人口が大きく減少する中、女性や高齢者の就業率上昇が労働力人口の拡大維持には必要ではないかという見方をしておりますし、その下のトピックではサービス業の中でも医療・福祉の増加ということで、これからのこの2つのサービス業が増加していくということ、ただし、生産性が高くはないので、今後ICTの活用等によって生産性の向上が見込めるのではないかというような形でも記載をしております、必ずしも1つの項目が1つの分野にとどまっているわけではないということで、資料の方はご活用いただければと思います。

なお、前回、年号の記載についてのご意見もありました。基本的には、年号と西暦の併記を基本としましたけれども、例えば、国のデータをそのまま掲載している場合であるとか、併記することによってちょっと文字が過密になって見づらいケースなどもありましたので、その場合は臨機応変に対応させていただいたところもあります。ご了承いただければと思います。

続きまして、資料4をご覧くださいと思います。こちらは、前回も含め、これまでお示しをしてきましたこれまでの施策の振り返りであるとか、それから仙台市の現状、今ご説明しました将来見通し、そして今、各局等で動いております計画や戦略の方向性なども踏まえまして、現時点で分野ごとに、今後の10年間の施策の方向性を検討するにあたりまして、この辺りがポイントになるのではないかとこちらで考えたものを論点としてまとめさせていただいております。

表紙をお開きいただきますと、目次が並んでおりまして、こちらは9つの分野ごとに分けて論点をまとめております。こちらにも一例を取り出してご説明をいたしたいと思いますので、先ほどの将来見通しと同様の分野「高齢・医療・障害」について例示的にご説明させていただきます。

1ページをお開きください。こちらの分野につきましては、まず高齢者人口の増加ということで1つ目に地域包括ケアシステムの構築としまして、要介護等の認定や認知症高齢者の増加、それに伴う在宅医療の需要の見込みを踏まえた論点でございます。住民同士の支え合いの体制支援や、在宅医療と介護を連携して支える仕組みづくりが必要ではないかという論点をお示ししております。論点部分には下線をお引きしております。

また、2つ目の健康づくりは、各世代を通じた生活習慣病予防や、そして、高齢者の社会参画、活躍、そういったところに着目をしていく必要があるのではとの論点をお示ししている部分でございます。

次ページに移りまして、3つ目の障害理解の促進と社会参画については、障害者の手帳保持者の増加を見据えまして、障害理解の促進や社会参加の促進、そして、2020年のパラリンピックを契機とした取り組みが必要ではとの論点をお示ししております。

4つ目としては、高齢者・障害者、両方に共通するサービス提供体制・人材の確保についてでございます。サービス産業の効率化であるとか、活性化が必要ではとの論点をお示ししております。

最後の障害のある児童等への支援につきましては、これまでの取り組みを踏まえまして、官民の関係機関の連携強化の必要性について論点としてお示ししております。

このような形で現状の取り組み、将来見通しを踏まえながら、市政全般に関する論点ではないかとこちらで考えた事項をまとめておりますので、これは今後の審議のご参考にしていただければと思います。

説明は以上です。

○奥村誠会長

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、個別的な質問がありましたら、どうぞよろしくお願ひします。どうでしょうか。

すぐに出ないようでしたら、考えて、メモしておいていただいて、後ででも結構です。すみません、すぐ前へ行くようで申し訳ないのですけれども、ご発言の時に後で戻って結構です。

(3)新総合計画における都市像と施策の方向性について

○奥村誠会長

それでは、議事の第3「新総合計画における都市像と施策の方向性について」です。
本題です。

まず、事務局から資料の説明をお願いします。

○松田政策企画課長

それでは、資料の5-1と5-2をご覧いただきたいと思いますが、まず5-1でござ
います。5-1は、都市像と施策の方向性の検討を始めるにあたりまして、議論が分かり
やすいものとなるよう作成したものでございます。都市像としてどのような仙台市になっ
ていけばよいかを上段に掲げまして、中段に大切にしたい価値観、仙台らしさ、仙台の強
みとして現時点で事務局で想定されるものを明記しております。その下に施策の方向性
ということで、これはキーワード単位になりますけれども、ご議論の何かきっかけになれば
いいと思ひまして載せているものではございますが、当然これだけに限定するものではご
ざいませぬ。この資料5-1の下にある施策の方向性のキーワードは、先ほどご説明しま
した分野ごとの主要な論点から拾い上げたものとなっております。

そして、資料5-2でございませぬが、こちらは各委員からのご意見の書き込み用のワー
クシートでございまして、掲載している内容につきましては、資料5-1と内容は同じも
のとなっております。

説明は以上です。

○奥村誠会長

この資料についてちょっと補足説明をいたします。

事前に資料送付をしていただいた段階で事務局からお願いしていると思ひますけれど
も、これから委員同士で「これが大事じゃないか」ということをご発言いただきますが、
意見交換する時、大事な、いろんなご意見が出てくるかと思ひますが、これだけ人数おら
れますので、結果のところ「いろんな意見が出たけど、結局、何だったっけ」みたいな
ことになると困りますので、議論の進め方について提案をしたいと思ひます。

1つ目は、都市像と施策の方向性を分けてやるというやり方もあるのですが、こ
こでは一体的にいきたい。前回の総合計画の策定時には、起草委員会というのがあって、
まず都市像を決めて、その後に具体的なことを議論していくというふうになっていたの
ですね。そうすると、もちろんいいところもあるのですが、その起草委員会というの
は、どうしても「言葉的にこれが大事だ」とか、「大事でない」とかいう話になってしま
って、具体的なこととつながりにくいということもあります。それから、今回お集まりい
ただいている委員の皆さまは、いわゆる学識経験者だけではなくて、現場で活動をされ
ている、実践をされている方も多くいらっしゃいますから、理念的に「何が大事だ」とい
うよりは、むしろ「こういうところに何か、本当は大事なことがあるんじゃないか」とい
う具体的な活動の話をしていただいてもいいと思ひます。そういうような意味で、各分野
で経験されている中から新しい、あるいは、ぜひ次の世代に向けて広げていきたい、伸ば
していきたいことがこんなのだというような動きとか、取り組みとか、そういうことも、でき

ればご紹介いただきたいというふうに考えています。そういう中から重点的に行うべき施策の方向性みたいなものが出てくるといいかなと思っておりますし、それをもう一度まとめてみると、そこから共通する重要な価値観とか、あるいは、仙台の新しい可能性とか、そういうものが見えてくるかもしれないというふうに期待しています。

何らかの土台がないと議論が発散するというのは、容易に想定できますので、議論をする上での見取り図として資料5-1という図を用意していただきました。上の方に都市像、下に施策の方向性を検討する上でのキーワードというふうになっておりますけども、これはあくまでたたき台なのです。皆さんにご発言いただく時は、できれば「このシートのこの辺を、今から私はしゃべるんですよ」ってことを言ってお話いただくと、どこの話をしているのかが分かりやすくいいかなというふうに思います。

それから、これは事務局の方で用意していただいたのですが、重要な事が抜けているってことも当然あり得ますので、自分の話は、今ここにある図のどの項目にも当てはまらないけど、これが大事なんだってことがあるかもしれません。そのためわざと空白の箱があります。ここには当てはまらないけど、私はこれが絶対大事だと思うことがありましたら、是非、ご発言いただきたい。発言が回ってくるまでの間にメモをしていただいて、追加すべき項目をご紹介していただけたらと思います。そういうところで皆さんのご意見を頂戴して、その中でより良いものにしていく、そんな形にして進めていければと思いますけど、このやり方でよろしいですかね。よろしくをお願いします。

次に、都市像という言葉なのですが、これは事務局と話をした時に私はこだわったのですが、「像」と書いてしまうと、その時に目に見えるものという感じがしてしまって、そうすると、「この時にこうなっていればいいのね」という形とか、そういうものの議論になってしまうような気がするのです。

ところが、先ほどもありましたように変化の大きい時代ですから、むしろこういうことを目指しているという姿というのか、運動というのか、方向性というのか、止まった形ではなくて、こういうことを目指しているのですというようなことの方が、実は本質的じゃないかと思っているのです。そういう意味で、あえて、「学び」も「学んでいく姿」、「共生」は「共生を広げていく」という態度というのか、基本的な考え方というのか、価値というのか、そういうものと呼んだ方がいいじゃないかと思って、都市像とわざと書かずに価値観、あるいは価値というふうに書いてもらっています。「やっぱり違いますよ。都市像と呼べ」と言うなら、都市像でも結構なんですけども。結果としてこういう形になっていけばいいという姿というよりは、何が大事かということをお忘れしないという価値観、方向性というようなものを議論したいと思ひまして、こういう資料にしてあります。「そうじゃないよ、やっぱり形なんだ」という意見があったらいただきたいと思います。

3つ目は、これまで計画で掲げられてきたもののほかに、新たな都市の個性とか、あるいは、新たな価値観というのも、本当は欲しいということなのです。先ほど資料1の年表にあったように、これまで総合計画を作ってきました。確かに増加拡大型から成熟型に、あるいは持続可能にという変化が出てきているのですけれど、1つ下の都市像のところを見ると、そんなに変わっているかと言うと、あまり変わっていないのですね、実際には。実は、今回も今の都市像がどうかとか、今まで大事にしてきた価値、それを守っていくの

も当然大事なのですけれども、そこからだけで議論したら、結局同じようなものしかできないかもしれないなと思ひまして。あえてもう一度申しますけど、あえて空の箱を作っています。ですから、「私は空の箱にこういう物を入れるべきだ」ということがありましたら是非ともご発言いただきたいというふうにお願いします。

実際にそれを入れるかどうかは、アイデアがいろいろと出てきた後で、ご意見、他の人のご意見を聞きながら、自分の発言の機会の時に「やっぱり、これはいいと思う」とか、「やっぱりそれは違うんじゃないか」ということを言うていただいても構わないということです。その叩き台、ワークシートとして、この2つはあるということになります。

以上のように、結局は言いたいことをしゃべっていただくのですけれども、どこのところと関係ある話なのか、いやいや新しい話なんだということなのか、その辺りを断ってからご発言いただきたいということにしたいと思ひます。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは皆さんでの意見交換、メインイベントに入りますが、今回も名簿順で行きます。ただし、前回「わ」から始まりましたので、今回は反対順です。「あ」から行きます。「あ」から行かまして真ん中まで行ったら、副会長に行つて続きというふうになります。よろしくお願いします。

ただし、ちょっと思ひつかない、後でしゃべらせてくれということでしたら、パスしていただいても結構です。その代わり1回しゃべってください。チェックしていきますのでよろしくお願いします。

それと前回ご欠席で今回からの鎌田委員さん、竹川委員さん、永井委員さんは、少しご自分の自己紹介もいただけると幸いです。今19時15分、皆さんに約束している時間は20時半までですので、最後に取りまとめがいるので、この時間は1時間しかございません。従つて29人いますので、一人2分です。最大2分ですので、よろしくお願いします。では、「あ」から順ということで阿部一彦委員さんからお願いします。

○阿部一彦委員

私は障害福祉計画の策定に取り組んでいましたので、まずは現行のと言ひますか、総合計画も踏まえて、今年度から6年の計画を昨年作りました。その時の考え方は、共生の都、共生する社会、そして基本目標として一人一人が違いを認め合い、尊重し合い、支え合う、誰もが生きがいを感じられる共生の都を共につくるということで、この中で障害のためにという言葉ではなくて、障害がある人に配慮した社会は誰にでも暮らしやすい社会になるんだよということで障害者施策推進協議会では取り組んでまいりましたという紹介をさせていただきます。そして、やはりこの時に、私たちこの共生社会ということは大事なことでありまして、これまでお話も出てきましたけども、障害がある人、高齢の人、学生の人、外国の人暮らししているダイバーシティ社会、多様な社会、多様な方々が活躍する社会は強い社会だつてということがすごく大事なことだと思ひます。それから私たちは震災を体験しましたので、やっぱり平時だけではなく非常時・災害時にも安全に安心して暮らせるというのは私たちの大きな学びで、発信すべきものだと思ひました。

とにかく大事なことはパラリンピックも迎えてということで、「ユニバーサルデザイン

2020 行動計画」というのがあります。関係閣僚会議、来週も開かれる予定です。やはり国の取り組みでいいものを、地方分権の中しっかり学んで取り入れる視点は大事なかなと思います。同様に皆さんご存知のようにSDGs 持続可能な開発目標っていうのは、もうこれは大きい目標になっていますので、これも学んだうえで仙台らしく考えていくのが大事なかなと思っています。

○奥村誠会長

ありがとうございました。阿部重樹委員さんお願いします。

○阿部重樹委員

どの辺かが分かるようにということで、資料5-1の方で、多様な主体で、挙げ続けたらきりがなことを承知してまず1点ですが、企業と事業者はたぶん違うと思うので、企業もあってよろしいのではないかっていう気がしています。それで郊外の地域のまちづくりのところで移動手段の問題が書かれておりました。高齢者の買い物をどうするかといった場合に、例えば、最近ちょっとショックを受けて見たのですが、ローソンやセブンイレブンでさえ移動販売車を展開している。仙台もよく考えておく必要があるんでないか。10年ほど前ですと徳島の「とくし丸」だとか有名だったのですが、そんなものかと思っていたら、大手企業も移動販売に参入している。

それからもう1つは、仙台市の場合、2040年か50年辺りが高齢者の絶対数のピークが来るようにデータで見たのですが。その時、いわゆる火葬能力、火葬場の能力とどれほど需給ギャップがあるのかという点もちょっと知ってみたい。これは横浜市の新横浜駅の本当に真向かい辺りだと思んですが、「ラステル」という、ラストホテルという遺体安置を主とした業者が展開してきている。やはり企業を少し積極的に高齢者の問題を考える時に位置付けたらよろしいんじゃないか。企業をやっぱり入れた方がよろしいんじゃないかって気がしています。

大きい方のワークシートに関わってですが、学びのところでキーワードが入っているのですが、あまり馴染みがないかもしれませんが、やや定着し始めている言葉で、「地学連携」、地域の地と学びの学と連携、こういう言葉も入れといたほうがよろしいかなって気がします。いわゆる地域社会と、私の意識では大学ですが、高校とか、学が連携協働して新しい都市づくりをつくっていくというのが、ちょっと今ここに出てきている例事案では見えないという気がするので、地学連携。もうちょっと意図を込めて言うとプラットフォーム、そういうものをどうつくっていくかっていうことがとても大きな意味を持っているのではないかというふうに思っています。大事なことはその2点。

施策の方向性のキーワードの共生社会というところで、性別と出てきているのですが、この性別は、おそらく生物学的な性別ではなくて、たぶんジェンダー的な性別かなっていうふうに思っています。それはそれとしてご検討いただいた上で、最近話題になって来ていることとして性的指向の多様性というのも、この性別とどう関わるのかなという気がして、ちょっと気になっていたところです。

それから、行政計画なのかというようなお話があって、行政用語として障害者はこう書

くのだろうというふうに思いますが、市民に参画を求めて、市民と共につくるということ言えば、この漢字の障害者よりは、もはやひらがなを交えた「障がい」の方が、一般的にもうなってきたんじゃないかって点が気になりました。

最後です。学びのところで地元定着策って出てきているのですね。その後、魅力づくり、地域づくりとあるのですが、これも大切ですが、仙台市の魅力の再発見、こういう仕掛けも必要でないかって気がします。そうした上で地元の魅力を大切にしながら地元で生きていくという、そういう生き方を大切にするというようなことも、何らかの形で働きかけていく必要があるんでないかと私は思っています。つまり東京志向のライフスタイルから、仙台市でのライフスタイルの素晴らしさを、対峙するものとしてどうアピールあるいはメッセージを伝えていくかっていうことも大切なような気がしています。

○奥村誠会長

ありがとうございました。すみません、4分半かかりました。

飯島委員さんお願いします。

○飯島淳子委員

ワークシートの中では、価値というところの活力、東北の中核に関わり、施策は横断的だとは思いますが、特に東北の中核、郊外地域、社会課題解決といった辺りに関わることで、地方制度に関して2点申し上げたいと存じます。

1点目は国の方向性として、連携を推進していくということ、その中でも中心市を核とした連携が打ち出されていることに鑑みますと、仙台市は東北地方唯一の指定都市であるということからして役割は大きいだろうと思います。また、資料の中に、秋田県よりも人口が多いということがございました。現在は県も市町村との協力・協働に力を注いでおり、奈良県、鳥取県、徳島県といったところは知事がリーダーシップをとっています。人口という面でそれに匹敵する規模を持っていることは、確かに直結はしませんが、やはり何らかの考えは打ち出していく必要があるのではないかとも思います。ただ、その際、国が推進している連携中枢都市圏施策に必ずしも限られるわけではなく、独自の連携施策というものも、仙台の置かれている地域性に鑑みて、練り上げていくこともあり得るだろうと思います。

例えば、北九州市や久留米市は連携中枢都市圏を形成していますが、福岡市はそれをやらずに、しかし福岡都市圏という単位で、公共私「共」をハブにして「公」と「私」を結んで経済産業の面で活力を生み出しているという事例もあります。

もう1点は、資料の中に特別自治市といった言葉も出ておりますけれども、指定都市制度につきましては、2014年の地方自治法改正で、一定の都市内分権の強化がなされました。総合区制度は使いにくいところがあるかとは思いますが、仙台市がこれまで行政区でやってきたところをさらに発展させていくということがあるだろうと思います。それと同時に、狭域の自治も最近では重要性を増しております。小学校区を単位とする地域運営組織であるとかエリアマネジメントであるとか、実務の中でも動いていると思いますけれども、そういう共が担う公共的活動をいかに支えていくのか。受益と負担の関係やフリーライドの問

題に鑑みて、持続可能性を確保するような施策も、強制加入といったところまで議論されております。この審議会にもさまざまなNPOの方も関わっていますので、「共」を支えていくような方向性も、仙台らしさの中で考えていくこともあり得るかと思えます。

○奥村誠会長

ありがとうございました。岩間委員さんお願いします。

○岩間友希委員

いろんな資料を拝読していた中で、これと思った2点は、やはり実践でも関わっております若者の首都圏への流出の件と、CO₂排出量が震災前の水準に戻っていないという2点です。

私がいつも実践として関わっているWEプロジェクトなどは、ジャンルとしては、資料5-2の「学び」に非常に近いところにありますが、若者、学生、それから社会参画したいと思っている方と触れ合う機会もすごく多いので、「仙台の暮らしは好きで、東京を働く場所に選びたくはないのだけれども、実際には働きたい会社がない」とか、「働き方の価値観が非常に今の時代に合っていないくて、もっと多様な働き方を認めてくれれば選びやすいまちになるのに」ということをよく聞きます。これまでのご意見の中にも多様性という言葉が非常に出てきたと思うんですけども、この多様性という言葉をもっと丁寧に議論をして、方向性を定める必要があるのではないかと。それを定めることによって行政だけでケアするには厳しいジャンルをあぶり出して、民間の参入を促した方がいいのではないかと考えております。

多様な働き方と言った時に、多様な業種や企業体、例えば、支店経済都市とよく言われますけれども、私自身は働く身になった時は、大手の支店であろうが、ローカルの企業であろうが、NPOや個人事業主であろうが、それは選ぶ人の自由だと思っております、そういう多様な働き方が実際に無いという事実がまちの特徴になってしまうと、例えば教育にせいかく力を入れて施策を行っても、やはり教育するだけして若者が東京に流出してしまうことになるのではないかと、というふうに感じております。東北の中核としての多様な活力を生むことで、世界のことを視野に入れたCO₂排出量の問題ですとか、そういうことを仙台で暮らす人たちが自然に意識するようになったら良いなあと思っております。

○奥村誠会長

ありがとうございました。姥浦委員さんお願いします。

○姥浦道生委員

資料5-1というよりは資料4とか資料3とかの、分野ごとの論点であるとか、将来見直しを中心にお話させていただきたいと思えます。2点でございます。

1点目は都市交通に関しまして、全体として非常によくまとめていらっしゃるんですけど、あまり申し上げることはないんですが、都心につきましては、やはり歩いて楽しいまちをどうつくっていくのかというところは非常に重要かと思っております、その際には特に

自動車交通と徒歩との関係性をどう考えるのかという辺りの整理がこれから必要になってくるかと思しますので、そこが基本となつての回遊性という部分があるのではないかというのが1つ。

それから郊外地域につきましては、この郊外地域を広くとっていただいているというのも非常に重要なポイントだと思っております、いわゆる郊外の団地だけではなくて、60年代70年代につくられたようなところが、実は非常に一番問題でございまして、この辺りをどうしていくのかと。その際にやはり地域の小さい単位のエリアマネジメントみたいなものであるとか、さらにはそういうところ、そういう主体に、公共施設だけではなくて、場合によっては、法律の先生が怒られるかもしれませんが、所有権なんかを飛び越えたような、何か管理能力を与えるとかですね。何か仙台らしい、仙台から発信して日本全国にこういうふうにまちをつくっていくべきなんじゃないかという、そういう策を打ち出させていただくというのではないかというのが1点目でございます。

2点目が市役所経営に関してです。これも2点ございまして、1つは、行政機構の改革の方向性ということで、飯島委員がおっしゃった通りでして、市役所の本体と、それからその下でございます区との関係をこれからどうしていくのかというところは、非常に根本的な部分かと思っております、その関係性が将来的にどうなるのかというの、まず示す必要があるのだろうというの、1点目でございます。

職員数につきまして、確保が困難になっているということですが、そもそも人口が減っているのに職員が増えるというか確保が困難という話ではなくて、恐らく職員も減らしていいんじゃないかなと思うんですが、その辺りの職員数であるとかの問題をどうするのかというところが2点目です、この辺りがおそらく、この市庁舎を建て替える時の根本の情報となってくるかと思しますので、その辺りの方向性をここで示す必要があるのではないかと思つた次第でございます。

○奥村誠会長

ありがとうございました。遠藤耕太委員さんお願いします。

○遠藤耕太委員

今回このいろんな資料を見ても、私が代表してきている農業の方があまりにも少なく、ちょっと残念だなというところがありました。学びと共生、環境、活力、どうにか農業をそこに結び付けていただけないかなと。

先日、東京の三鷹市の農業祭に参加してきたところです。三鷹市は田んぼの1枚もないような都市です。畑しかない。そういうところで、子どもたちが野菜の絵をしっかりと書いて。地元の農業者そして市民とその農業を通じてですね、高齢者であったり、障害者が、都市の中で農業と共存するということに、すごい感銘を受けてきたところです。いろいろ農業を通じて少しでも、「学び」であったり、「共生」「環境」「活力」のところに、何とか皆さんの力を借りて、少しでもお役に立てるところが農業にはあるのかなと思つています。

震災以降、被災した沿岸部には、いろんな園芸ゾーンとかそういう野菜ゾーンとか家畜

ゾーンとか、そういう構想もあって、本当に楽しみにしていたところがあったのですが、実際のところ東部地区に今家畜がいるかっていったらいるわけがないのですけども。そういったところもこれからですね、おもしろい仙台のまちづくりに生かしてもらえればなどというところ。よく話がまとまらなかったんですけども、そういうちょっと楽しいまちづくりの方向性を考えていければと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございました。遠藤智栄委員さんお願いします。

○遠藤智栄委員

私が主に中心的に関わっているのは、施策の方向性としては、共生社会や生涯学習や社会課題解決の辺りかなと思いますけれども、いただいた資料を拝見しましての私の印象としては、市民が担わないといけないことが、たくさん市民にやってもらわなきゃいけないことがたくさんあるのだなと。動く、行動を起こす市民がもっともっといないと仙台はどうなっちゃうのかなという不安を、資料を見ていて覚えたのです。

もちろん市役所の方が頑張ってくださいというのが大前提なのですが、やはり市民一人一人、一者一者、いろんな団体、地域が総動員でアクションしていかないといけないのだなっていうのは、すごく感じました。ある意味すべてに関わるような言葉としては、市民一人一人の溢れ出すアクションを、どう支援していくのかというようなことがちょっと頭に浮かびました。溢れ出すというのは、よく聞くのは、頼まれてやる、今これが大変なので頼まれてやる、それも1つのアクションだと思うのですが、市民一人一人の方がやっぱり一人一人の個性や特性や、自分が探求した結果これがやりたいってことが必ずあるはずですので、そういった溢れ出すものを引き出せる都市になっているのか、そういった関わりを持つ組織体がこの仙台に溢れているのかっていうことが問われているような気がするのです。

緊急時はトップダウンでいろんなことが進んでいくと思いますけれども、東日本大震災後はどんどんと平時に向かって進んでいます。そういった平時に進んでいきますと、そういった溢れ出すことにやる気とか可能性を引き出すような支援型リーダーとか関わり方が重要になってくるというふうに言われています。そういった点では、いろんな施策なども、本当に溢れ出すような活力を生んでいる施策なのかということを確認する必要があるのかなと。そういう点では支援者は民間も行政の方も関わり方自体を見直していく必要があるんじゃないかなと感じました。そういった点では協働も私のテーマですので、市役所の中と民間・地域の方々との協働の施策というのがもっと増えていいんじゃないかと。一緒に働く、一緒に行動して事業をやっていかないと、お互いの特性や違いというのも分かりにくい。分野横断型の効果的な事業というのを増やしていく必要があると思います。1事業で複数の課題が解決するようなそういった取り組みが必要じゃないかというふうに思っています。

後は、年表に色字で書かれたように、市民協働の分野でも全国から注目される場所がいろいろあるのですけれども、それが意味昔話になってしまったり、忘れられてしま

うのを危惧しています。例えばよく使われるスパイクタイヤの運動についてもです。この事を詳しく知りたいと思うとなかなか資料も出てこないのです。実際の生の人の、多様な方が関わったはずなのに、そういったもののアーカイブが分かりやすいところに無いってということもあります。今まで成果を生んできているのに、それが「見える化」と「伝える力がない」ことで、仙台の歴史が表現されてない。それは課題であり、もったいないことだと思っています。

最後に、この総合計画自体も仙台市が協働ということをきちんと謳っていますので、協働でつくる総合計画となるようにしたいです。冒頭でご提案したように、審議会と市民の皆さんが考える歩みを一緒にしながら、市民のご意見を審議会も謙虚に伺いながらさらに深めていい総合計画をつくる、つくり方を協働で示していくということをやれたらいいのではないかなと思っています。

○奥村誠会長

ありがとうございます。小野寺委員さんお願いします。

○小野寺健委員

説明と資料等いただきました。さまざまお話をさせていただきたいと思います。新総合計画も含めてですけれども、どうしてもこういった議論になる時は、歳出、支出の方の議論から入るわけなんですけれども、これからの仙台市、どうやって歳入を確保していくか、収入を確保していくかという視点も非常に大切なことではないかなというふうに思っています。いかにこう働いてもらう環境をつくるか。そして働く世代の方々がいかに住んでいただけるかというような視点も必要なのではないかなというふうに思いますので、是非ともその辺の方、議論をしていただきたいなと思っております。

今日はキーワードということで聞いておりましたので、キーワードを7つ作ってまいりました。今から申し上げたいと思いますが、「安全安心」、「地域の個性」、「にぎわい交流機会」、「ゆとりうるおい」、「環境共生」、そして「国際競争力」、「国家的価値のある歴史文化」というような7つのキーワードを持ってまいりました。大体重なってる部分もあるのでその辺は説明しないと思うのですが、若干抜けているかなと思うのが「安全安心」という観点だと思っています。都市が引き続き人々が生活する場であり、また産業が集積する経済活動の拠点であり続けるための最低限の条件としては、安全安心が確保されていることだと思います。災害犯罪から守られていることはもちろんですけれども、医療福祉の面でも不安なく暮らせる場でなければいけないのではないかなというふうに思っています。

「にぎわい交流機会」、これ皆さんよく言うことですけれども、やはりあの集積の場として機能するためには多数の人々の雇用が確保される、これが一番大事なことはないかなと思っていますので、その中で都市としての魅力、創造性を育むにぎわい交流が必要であるんじゃないかなというふうに思っております。そして最後でございますけど、3つ目は「国際競争力」です。これは地域間競争の中でもあることだと思うのですが、仙台という都市の規模では大規模都市と同じようなことはたぶんどできないんじゃないかと思っておりますけれども、こういった仙台のような都市でも高度で多様な人材が集まって交流する

ことで国際競争力を持つことは可能ではないかなというふうに思っています。例えば東北大学もありますし。大学、先ほど地学連携というお話もありましたけれども、優れた研究を各大学でされていることもあります。また芸術文化が育っている仙台市でありますので、創造的な都市をどのようにつくっていくかということの視点も必要ではないのかなというふうに思います。

○奥村誠会長

ありがとうございました。柿沼委員さんお願いします。

○柿沼敏万委員

都市像と大切にしたい価値というところで一言申し上げたいのですが、やはり大切にしたい価値というものの心をどのように表現していくかということが大事ではないのか。それが都市像に結び付くと思っているのです。ですから、逆に都市像を考えることによって大切にしたい価値というものも合わせ考えていく必要があるのではないのか。そうする時に、都市像と大切にしたい価値を連動して、平行しながら議論をし、そして仙台という都市の個性をさらに発展させるため、仙台の目指すまちとはというようなものを、やはりここにはございませんけれども、そういうものを合わせ考えながら、仙台らしい大切にしたい価値というものをさらに深めて議論したらいかがかなというふうに思っていました。先ほどの会長さんのご見解に賛成ではございます。そういうことを踏まえた上で都市像ということも是非加えて議論していただければというふうに思ったことです。

○奥村誠会長

ありがとうございました。鎌田委員さんお願いします。

○鎌田城行委員

前回欠席をいたしまして申し訳ございません。簡単なプロフィールは、鉄砲町に生まれて大学進学のために東京に巣立ちました。15年ほど東京で暮らしまして、それからこちらに戻ってきた時には太白区の中田というところに暮らしました。子どもの小学校に上がるということをきっかけとして青葉区の方に移り住みました。私自身は親が50歳の時に生まれた子どもですので、小学校上がって中学になる頃にはもう親は無職でございました。新聞配達など配りながら、なんとか自分のことは自分でという親からの教育を受けて社会人になった。そういう思い出。仙台には非常に好きなのところも嫌いなのところもありますけれども、そういう点も含めて何かしら人の役に立てればというような思いのところ、皆さまから推されて仙台市議会議員になって15年経ちました。

会長からのお話のテーマとしては、都市像、まちづくりの上で大切にしたい価値、そしてまたキーワードを、どれか1つというふうに考えた時に、私は「共生」ということを考えていきたいというふうに思いました。仙台市、ようやく障害を持つ方を持たない方も共に暮らしやすいまちをつくるのだということで条例もつくりましたけれども、その点のバリアフリーの問題もそうです。もう1つは働いている人と働いていない人、働きたくても

働けない人。そういった方々の生産性とよく言われるところの問題においても、暮らしやすいまちをつくらなければいけない、また地域と都市部、こちらの資料の中でも示されております将来見通しの中でも人口減の著しいところというのは、都市部よりも郊外の方に非常に色濃く出ておりますが、こういったところ買い物弱者の問題も先ほどお話にありましたけれども、交通弱者の話もありました。その点も含めて、さまざまな問題についてそれぞれがやはり暮らしやすい、互いに共生をしていく中で安心して暮らせる状況をつくっていくことが必要であろうというふうに思います。

一番言いたいこととしては、共生のことを取り上げましたけれども、木を見て森を見ずということになってはいけませんので、特に戦後は戦災からの復興と言われ、それから公害問題が叫ばれて健康都市仙台というふうに言われました。それで、今東日本大震災を受けて、改めて震災からの復興ということが叫ばれる中であって、国と地方との共生ということも考えていかなければいけないというふうな思いもありますので、こういったところもしっかりと十分に皆さまと論議しながら、本当にこれからの仙台のまちづくりの中では、できれば単純明快に、本当に一言二言で語られていたようなまちをポイントとして、それを具体的に派生していくと、こんなにも広がっていくというそういう総合計画であればよろしいのではという思いを持っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

○奥村誠会長

ありがとうございます。ここまでで10人の方にお話しいただいたのですが、30分使ってしまった。残り一人2分でお願いします。そうしないと終わりませんので、よろしくお願いします。菊地委員さんお願いします。

○菊地崇良委員

都市像については会長がおっしゃられるように、帰納それから演繹の両方策でどんどんフィードバックしながら進めていただきたいという、同じ気持ちでございます。それから今回の都市像だけではなく、前回も申し上げたのですが、基盤的事項ということで、これからかさむ社会保障経費やインフラの維持管理経費に税収が追いつかないといったことから、市民がいかにかやるのかと、いわゆる自助、自発能動的に、どうやって市民がその役割を果たしていくのかということはこの基盤的もしくはこの施策の方向性の中にどこか入れていく必要があると思います。

それから各論の施策の方向性について幾つか申し上げたいと思います。全体的に見てですね、項目が出ているのですが、弱いなあとと思うことが幾つかあると。例えば横の展開、横軸の連結という意識はあるのですが、いわゆる時間軸での視点というのが少し欠如しているのではないかと。例えば世代間交流とかですね、各世代を通じた生活予防健康づくりとあるのですが、これだけじゃなくて、もっと多くの施策の中に、次代の育成も含めて、時間軸のですね、連携ということを書いていかなければいかんと思います。

それからもう1つ、地域のコミュニティー単位ということで、今小学校区から中学校区でいろんな連携施策を進めていくということになっておりますけれども、そういった地域コミュニティーがいかにかあるべきか、といった視点も施策の方向性として追加されるのか、

あるいは基盤事項へ入ってくるのかご検討いただくべきだと思っております。それからあと国の視点から生涯生産性向上、ICTの話ですけども、10年後には、総研の試算では49パーセントの仕事が機械に取って代わられるといったことがあります。この辺の議論がどんどんどんどん進んでいく中において、この中小・中核企業の育成とかだけではなくて、どういうふうにこの仕事が創出されるかってことも、国やそういった民間の状況を見ながら3年間しっかり反映をアップグレードしなきゃいかんなど思っています。

最後に東北の中核の話が幾つか出ました。今連携中核都市圏構想を含む、いわゆるその業務の効率化を含む地方自治のあり方について、31次地方制度調査会の方でやっておりますけども、その仙台圏だけではなくて、当然それに並行して、東北の227の市町村のいわゆる基礎自治体の中核であるという意識とそれ全体の課題解決、あるいは情報共有あるいはそれに対して国に発信していくという力が仙台にありますので、この責務もですね、今回の31次地制調の話と加えながら、しっかりと謳っていく時代になっていくのだろうと思っておりますので、コンテンツについては引き続きご検討を、あるいは発信もしていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思っております。

○奥村誠会長

ありがとうございました。小岩委員さんお願いします。

○小岩孝子委員

今度の新総合計画をつくるにあたって、仙台らしさを育む未来の子どもたちを応援する10年間になればいいなと考えています。また私どものNPOが目指そうとしている「誰にも優しいまち」は、この資料5-2のキーワードの中の2とか12に当てはまるなどか、それから「シニアがシニアを支えるまちづくり」を目指していますが、これも、1の在宅生活支援とかに結びつくし、「子育ての応援、子育て子育て応援社会」を目指していますが、これもやはり3、8とかにも結びつくキーワードがたくさんあるなど思っていました。

高齢者と言っても10年間の計画だと、その高齢者とは何歳なのかを考慮する必要が出てくると思います。今65歳、75歳が区切りになっていますが、超高齢社会においては、まだ活動できる人や働ける人がたくさんいたり、年金の問題も踏まえて、やはり流動性を持った総合計画にしていけないといけないのかなど思っています。

また、障害者とか障害児の件ですが、今グレーゾーンの子子どもたちがとって多くなっていて、なかなか社会の中に入っていけないということも多く、その子たちを障害者と言うべきなのかどうなのか。支援の必要な子達が多くなっていることを鑑み、どういうふうはこの施策の中に入れていくべきか考えています。それからこのキーワードのところの1から16を見させてもらおうと、地域とか住民という言葉が、半分以上に入っていることを考えると、行政や学校だけではなく、私たち仙台市地域住民と一緒に10年間を進めていくべきと改めて思っております。その中で地域のコーディネーターとかリーダーとかを育てるということも私たちの役割だなと考えさせられています。

○奥村誠会長

ありがとうございました。今委員さんお願いします。

○今里織委員

私は労働組合という立場ですので、働きやすさとかそういうところをちょっと考えたのですが、やっぱり企業の活性化なのだろうなというふうに考えました。どのように企業を活性化させていくのかなというふうになった時に、東北の中でもやっぱり仙台って特別輝いているまちなのかなというふうに思いまして、東京で働きたいんじゃないで、仙台で働きたいって東北の人たちが思う、後は東北以外のまちの人たちも、仙台で働きたいね、あのまちいいよねって言われるのが究極の姿なのかなというふうにした時に、地元の企業ですとか民間をやっぱり巻き込んでいくというのが大事じゃないかなというふう考えたところです。

とはいえやっぱり自分もそうなんですけど、行ったことないところに行くとかいうことは、なかなか難しいだろうなというふうに思いますので、いかに仙台に足を運んでもらえるかっていったところを考えていけるといいかなというふう考えたところです。ただ話がまとまってないので具体的にこれだとなのがちょっと痛いところなんです。

このキーワードの中で、連合は労働組合の団体ですけれども、共生というところに当たるのかというふうに思うのですが、LGBTのさらに1つ上の、ソジ、ソジってよく言われますSOGIといった視点で議論を進めているところですので、そういったキーワードも中にもあってもいいのかなというふうに思いました。

もう1つ感じたところとしては、地域のコミュニティーが非常に大事だろうなというふうに思っています。民間の企業も地域のコミュニティーの1つだと思いますし、町内会ってあまり最近聞かないですけども、やっぱり自分たちが意見を発信できる場だとか、何か実行できる場っていった単位で物事を考えていくことも大事なななというふうに思った次第です。もっと積極的に発言できるように勉強してまいりたいと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございました。今野彩子委員さんお願いします。

○今野彩子委員

私は「学び」と「活力」というところからお話をさせていただきたいと思いました。最近私どもの会社で行う事業を考えても、地元企業が経済を担う役割という主体であるというところを超えていく必要があると感じます。この中の計画の骨子でも、地元企業の活躍とか地域経済を牽引する企業の重要性が書いてありますが、牽引するためには多様な主体との連携の上でハブになり活力を生める事業をつくっていかれるかということが非常に重要なのではないかなと思います。

具体的なところで1つ言うと、先ほど阿部重樹先生がおっしゃった地学連携の1つだと思のですが、地元企業と地元の大学とのもう少し立体的な連携みたいなのが必要かと思えます。学生と企業が事業を推進する、いろんな課題を解決していくための連携をモデルをつくって推進することができないのかなと思います。特に人生100年時代ということで

企業も社員が 70 歳までは働くという時代を迎えますので、経験を積んだ社員が連携を推進できるという形がつけるといいかなと思います。

もう 1 つ、今経済局さんの方でやっていらっしゃる四方よし企業大賞というのがあると思うのですが、こちらのお話を聞いていく中で、仙台が四方よしのまちみたいな感じで、近江八幡に負けないくらいのブランディングができたりといったことが、これは都市像に若干入るかもしれませんが、できるといいなと思います。その中でも人材不足の時代においては、4 つ目の働き手よしの部分が非常に重要で、「働き手よしのまち」だとプロモーションができるように、企業が努力しなければなりません。先ほども出ていましたけれども、企業の働き方をもう少し柔軟にしていかないと人手不足というのは絶対に解消できないです。小学校に行くと、人手不足と言いながら、「自分の望む働き方がないから働く場所がない」とおっしゃっている力のあるお母さんたちがたくさんいるので、そこのマッチングができるような働く場所を企業がいかに準備できるかってことなんではないかと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございます。折腹副会長さんお願いします。

○折腹実己子副会長

私はキーワードの中の「在宅生活支援」というところがちょっと気になりました。在宅イコール家で暮らす、それが高齢者の幸せかって言うと、たぶんそうではないと思うのです。高齢になって一人暮らしも多くなったり、夫婦だけの世帯がこれからどんどん増えていく中で、自宅で暮らすっていうのはとても大変なことだと思います。ですので、「在宅生活支援」という「家で暮らすことを支える」ことよりも「地域で生活することを支える」という、今地域包括ケアシステム構築のことを目指している社会としては、地域生活支援の方がキーワードとしては適切ではないかなというふうに感じました。

それから、社会課題解決というところの社会起業、多様な主体の連携というところのキーワードですけれども、その地域包括ケアシステムの中で医療介護福祉というところがとても大事だと思うんですが、先ほどの説明の中にもありましたように生産性が低いという話がありました。生産性が低くなるのは当然で、高齢社会となれば、これを問題視し続けることって意味が無いんじゃないかなと感じます。医療や介護や福祉がこれからその労働人口も増えていくし、ある意味、成長産業というふうに捉えることができるというふうに思います。介護や医療に関わるさまざまな企業とか、例えば社会福祉法人とか、そういったところをもっともっと活用していきながら、安定した高齢社会の構築を目指していくという、そういう方向性を具体的にする必要があると。高齢になってすぐ介護が必要になるわけではなくて、健康を維持したり、介護予防を続けたり、また就労雇用、そういったところで元気をつなぐ活動をしていくというようなことが幸せな高齢社会につながっていくというふうに思いますので、そういった企業の社会貢献などをきちんと位置づけていくことが大事かなというふうに思いました。

○奥村誠会長

ありがとうございました。後半に行きたいのですが、もう8時になってしまいましたので後30分しかございません。これから13人の方にお話をさせていただけないといけないので、2分になったところで切ります。今野薫委員さんお願いします。

○今野薫委員

キーワード的には私も皆さんのご発言とかぶります。それでどうしても穴あきがありますと、学生時代の癖でどうしても答えを探しちゃうのですね。それで、このうちから、これだけあって何が入るべきかなと考えてしまったわけなのですが、やはり経済というふうなこと、それから支え合いとか、住みたい人、若者の定着、いろんな要素をひっくるめると、人を集める魅力とそのため機能を持っている都市というのが1つ、私の中では頭の中に浮かんできたものなのですね。先ほどあの市民がイコール市民だけではない、住んでいる人だけじゃないというようなお話もございました。外から呼んでくるということ。

○奥村誠会長

2分です。

○今野薫委員

2分になりました。失礼しました。ここで切ります。

○奥村誠会長

ありがとうございました。申し訳ございません。榊原委員さんお願いします。

○榊原進委員

冒頭の事務局から、総合計画は「まちづくりの指針であり、多様な主体が目指したい方向を共有する」という説明があったのですが、この計画プロセスだけでなく、総合計画が策定された後に、多様な主体に関わってもら参加のインセンティブをどういうふうに与えていくかっていうことを計画にも盛り込むべきではないかというのが1点です。

2点目は、「大切にしたい価値」の部分のところで、キーワードとして「挑戦」とか「創発」などを入れて欲しいと思います。他分野もクロスしていろんなことをしていく部分では、たぶんイノベーションが起きていくみたいな話も出てくるし、どんどん挑戦していくべきじゃないかなと思います。その裏には挑戦してすべてが成功するわけではないということもあって、その失敗も許容される、失敗しても何度でもチャレンジできるという環境という文化が仙台に根付くことが重要じゃないかと思います。

3点目は、1点目のインセンティブにも関わりますが、例えば、全体で言うと人口が減っていきますが、今仙台の市内総生産は復興特需もあって約5兆円あり、これを、10年後もキープしますというのを市役所だけではなくて、企業も含めた市民全体の目標とするのとか、あるいは仙台市役所で言えば市税収入1,885億円ってなっていますが、例えば10年後には2,000億円を目指しますっていうふうに、言葉だけではなくて数値目標の設定も

必要かと思えます。民間企業からすると、チャレンジするインセンティブは規制緩和や税制優遇などが考えられます。いずれにせよ、多様な主体が総合計画の実施にもコミットできる具体的な目標や仕掛けも盛り込んで欲しいと思えます。

○奥村誠会長

ありがとうございました。佐々木委員さんお願いします。

○佐々木綾子委員

子どもの貧困という社会課題に取り組ませていただいているので、そちらの方からちょっとお話をさせていただきますと、やはり子どもの貧困イコール親御さんの貧困という形になりまして、一人親の貧困率が 50.8 パーセントととても高い状況になっています。ただ就業率は 80.6 パーセント、働いているけど貧困という状況になっています。ですので、やっぱりここで、その一人親家庭の、これから高齢化社会になっていく中で女性は大きな働き手、1つの担い手という形で考えてみますと、やはりそういったところ、雇用の部分だったり、子育ての部分といったところを考えていく必要があるかなと。

後、こういったことを考える中でやはり欠かせないのは「共生」といったところで、地域コミュニティがある程度やっぱり構築されますと、いろんな高齢の部分だったり高齢化の見守りだったり子育ての部分がやはり包括的にクリアされる場所もたぶん多いと思えます。ですので、「共生」をすごく大切にしたいなというふうに考えています。ただ、この諸々ですね、やはり一番支えていくのは、そのやはり「経済の活性」といったところかなと。そのやはり福祉っていったところも充実していくのも経済の活性がなければなかなか難しいところがございます。私も日中、中小企業の方で働いていますので、やっぱりその魅力ある中小企業、稼げる、魅力あって人もお金も入ってくるような、そういった中小企業の働き、これからの考え方がとても必要かなというふうに思っています。

○奥村誠会長

ありがとうございました。佐藤委員さんお願いします。

○佐藤静委員

心の支え合いの基盤づくりということを言いたいと思えます。私たちは東日本大震災の時の心のケアとか絆づくりの取り組みを行いました。学校では今スクールカウンセリングの取り組みを行っています。あと児童生徒の心と命を守るような心理教育の取り組みも行っていきます。いのちの電話のような市民ボランティアの活動もあります。こういう取り組みあるいはリソースを活用しながら専門家と市民が協働した日常的な心の支援、相互の支え合いの基盤づくりができないかなというふうに考えているところです。是非ご検討いただければと思えます。

○奥村誠会長

ありがとうございました。庄子委員さんお願いします。

○庄子真岐委員

3点あります。1つは、キーワードとかではないんですけれども、今仙台市で走っている個別計画との整合性を図っていくべきではないかっていうところが1つです。やっぱり総合計画が一番の上位計画になりまして、阿部一彦先生がお話ししたように福祉計画のご紹介がありましたけれども、例えば、私が関わっている音楽ホール建設の検討の中では、音楽の方の「楽都仙台」っていうのがあるんですけれど、それがキーワードに載ってきていませんので、そういった今走っている個別計画を是非振り返っていただいて、そこをキーワードとして精査していただきたいなというふうに思います。

もう1つは、「学び」でとどめるのではなくて、「学びを生かす」にしたらどうかなど。「学び」でとどめてしまうと、ただ学生が学びに来て、それで卒業してって終わりになってしまうので、先ほどの地学連携の話もありましたけど、やっぱり大学で学んで、それをまちづくりの中に生かしていくんだみたいなのがキーワードとして入ってくるのかなっていうふうに思いました。

3つ目は、それとも重なる部分ではあるかもしれないのですが、私は、東北の中核都市としてプライドを持ってですね、人材育成ですね、人づくりというのを仙台市が大切にしたい価値として示していければいいんじゃないかなっていうふうに思います。私が専門なのは観光なんですけれども、観光については、仙台市は東北のゲートウェイとして、そして仙台市だけではなくて、やっぱり東北全体の魅力を高めないと、どうしてもインバウンドとかは、受け入れの増加が見込めないところがあります。仙台市で人を育てて地域に送り出す。そして東北の地方都市が魅力的になれば、またまた東北にたくさんのインバウンドの人たちが来る。そうすると一番果実をもぎ取れるのは仙台市ですから、仙台市が人材育成、人づくりをしっかりやっていくっていうのも大事ではないかというふうに思いました。

○奥村誠会長

ありがとうございました。菅井委員さんお願いします。

○菅井茂委員

町内会を運営するにあたってですね、「安全安心な住みよい、住み続けたいまち」というものをテーマとしてやっています。住み続けたいということは、やはり生活しやすいまちだからであって、それをこれからも追求していけばいいんじゃないか。そうしてみると、ほとんどのものがみな入ってくるような気がします。

ただ入ってないのが国際化の視点、そういうのは入ってないだろう。あるいは今出てきたような観光の問題とかですね。そういうものも含めた形で全体的に捉えられていけばいいのかなと思っております。

○奥村誠会長

ありがとうございました。竹川委員さんお願いします。

○竹川隆司委員

前回出席できずに大変失礼いたしました。自己紹介を簡単にさせていただきます。元々神奈川県横須賀市で生まれておりまして、今も実は東京に住んでおります。キャリアとしては野村證券に10年ほど、金融にいまして、その後自分でスタートアップを3社ほど起業して、今では御町にありますインテラック東北イノベーションセンターという起業家支援の施設でその運営と、いろんなプロジェクトの企画をして、起業家の支援を基本的に行っております。ユニークな点としては、日米で株式会社も、NPOも自分で起業したことがあるということと、この20年で10年以上海外、ニューヨーク、ロンドンにおりまして、今でも東京にいるということで、外の視点から仙台のよさを見出せればというふうに思っております。

今日の議論に行きますと、私、若干フライング気味に、都市の姿を勝手に考えてきてしまいました。「日本一集う、起こす人がつくる日本一住みやすいまち」というのが、私にとっての都市の姿ということになっているのですが、その心は、というところで申し上げますと、施策の方向性というのをちょっと拝見した時に、このほとんどが社会課題解決に紐付いてるなというふうに一見して思ったのですね。社会課題が解決した先にある共生社会とか、先にある子育て、教育とか生涯学習とか、そういったつながりがあるんじゃないかなと思っていました。大切なのは、こういう社会課題を解決するその課題を機会として捉えて解決できるような人がいかに活力持って活躍できるかということがポイントなんじゃないかなと思ひまして、それで「起こす人が自分たちで住みやすいまちをつくる」というふうにさせていただきました。外から見て一番の東北の強みって、私は特に若い人の震災後の一人一人のマインドセットだと思っています。これ何かと言うと社会のため地域のために何かをしたいというマインドセット。これは起業の理由としても定量的にも今全国比較で出てきている強みでありますので、こういうマインドを持った人を生かして、その社会課題を解決するというような動きができれば、施策の方向性にあるような全体的なところもカバーできるんじゃないかなというふうに思って、そういう姿を想像しております。

○奥村誠会長

ありがとうございました。舘田委員さんお願いします。

○舘田あゆみ委員

ICTの立場からご意見させていただきます。資料5-1の下の方の右側のほうに「生産性向上」、「イノベーション」ってございますけれども、大体こういうところにそのICT関連のキーワードは埋まっておしまいになってしまいますが、基本的にはもうICTっていうのはありとあらゆるところに入っているというのが1つです。今欧州のEUとかではスマートシティという取り組みがたくさん都市で始まっておりまして、ICTを使って住みやすい都市をつくっていくという感じなんですけど、その関連項目は今回例えば分野ごとの主要な論点に上がっているすべての項目に関して、ICTで何ができるかってい

うようなことをチャレンジされています。それでICTっていうとすごく皆さん冷たくて嫌なものだと思われちゃうんですが、目指しているのが3文字で言うから良くないんでしょうけれども、ヨーロッパではQOLってクオリティオブライフですね。生活の質をどうやって向上していくかっていうところに使おうとしているという意味で、これから人がどんどん人口減で減っていった時に生産性向上とかなんとかって言うところではなくて、どうやってその働くものを増やすか、人が働けなくなったところをICTを使ってどうやって一緒にやっていくかっていう観点が大事だと思いますので、最先端で分かりにくいものではなくて、もっと身近で、誰でもが、例えば菅井先生も簡単に使えるようなICT社会っていうのを逆に仙台市が目指すべきなのかな、身近なICT先端都市ぐらいのことを目指したらどうかなというふうに思いました。

○奥村誠会長

ありがとうございました。永井委員さんお願いします。

○永井幸夫委員

仙台市医師会の会長を務めております。9年前に医師会長に選任された時に、一番先に僕が掲げたのは「仙台市医師会は仙台市民の命と健康を守る」、これを使命として活動する、ということです。その後震災の時も含め医師会会員一同で活動しております。本職は小児科医です。医師会長として妊産婦さん、生まれてすぐの子どもから最後は高齢者そして終末期の医療までいろいろ携わっております。

今日、いろいろ話をうかがって内容を見させていただいて、「心豊かな、住みやすいまちづくり」。今、仙台市のまちが活性化してなきゃ駄目だ、活力がなければ駄目だというお話もたくさんありましたし、私自身もそう思っています。そのためには、仙台市民が健康でなければならないと思います。そういう健康の面での視点、健康づくりの視点を是非入れていただきたいなと思います。ご存知のように今平均寿命というのは男性は81歳を超えました。81.09。女性は87.26、87歳を超え、それぞれ男性は世界3位、女性は世界2位と長寿です。ただ健康寿命について、皆さんご存知だと思いますけど、人の世話にならずに介護もされずに生きていける年齢というのは、男性は72歳、女性は74.6歳なのです。そうすると、男性は人の世話になる期間が9年あるし、女性にいたっては13年もある。100年社会だって言うけれども、寝たきりとかそういう時間が長ければ長いほど、本人が一番厳しい状況になるのです。是非入れていただきたいのは、「健康寿命を延伸する」です。そのために我々は、例えば糖尿病の早期発見、早期治療により、腎不全になって透析する方、それから目が見えなくなる方を阻止しようとして活動しております。「健康寿命の延伸」という視点を是非入れていただければいいかなと思っています。

○奥村誠会長

ありがとうございました。浜委員さんお願いします。

○浜知美委員

私もちょっと具体的に、ポイントを考えてきたので言います。「誰にも優しいまち仙台」ということで、ご年配者とか子どもとか外国人とか、誰もが活躍できる、あと障害者、誰もが活躍できるまちになればいいかなと思っています。本当に困っている人に手を差し伸べてあげられるような施策ができたならと私自身は思っています。

市民協働の委員もやっております、実は菅井委員と同じ町内会なんですけども、私も数年、今までずっと町内会の活動っていうのは、子どもが小さいころはやってなかったんですけど小学生になってやるようになって、菅井さんの姿を見ながらいろいろ町内活動をさせていただいているんですけど、やっぱり若い世代がそういう町内活動になかなか参加しないということで、その点も何か施策の中に入れて、もっともっと地元で課題を解決できればなというふうには思っています。

○奥村誠会長

ありがとうございました。舟引委員さんお願いします。

○舟引敏明委員

1つ目は、分析の進め方です。分野ごとの反省から入ると前例踏襲か細分化しか行かないのでやめたらいいと思います。そうじゃなくて、こんなことやっている時代遅れになってしまいます。最初の、どなたかご発言がありましたけど、いまSDGs、国連サミットで目標2030年という同じ目標年次です。これから10年間、この物差し、17の目標で都市の政策は判断されるのに、そういうのがまったく意識されていない。ジェンダーもこの中に入っています。多くのものがこの物差しに入っているという点について、このままでは本当につまんないものになりかねないというのが1点。

2つ目は国際競争力とお話がありましたけれども、今インターナショナル、グローバルな都市間競争です。都市間競争、都市の間でビジネスのチャンスをいかに得てくるか。いろんな武器ありますけれども、この武器の1つが環境です。大阪市はここ5年でものすごい勢いでウォーターフロントの景観や賑わいを整備することにより、都市活力がすごく伸びている。これは世界が視野です。美しい都市景観、緑が豊かな都市、安全な都市を求めてグローバルで競争しています。国際的な視点で言えばせつかく仙台で国連防災会議をやって、Eco-DRR（生態系を活用した減災・防災）ですか、そういう提案も仙台から発信されているにもかかわらず、そういう視点をやっぱり、ここで外に向けて打ち出さないと、今の計画が悪いというわけではありませんけれども、次の10年間に向けては新しい考えを吹き込んでいくことが必要ではないかと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございました。やしろ委員さんお願いします。

○やしろ美香委員

1点だけお話をさせていただきたいと思います。私、突き詰めていくと、やはり未来の仙台を担う人をどうやって育てていくか、人づくりではないかなというふうに思いました。

それで資料5-2の中にも、「人づくり」というところでリカレント教育や生涯学習という学びに関連するキーワードが出てきているんですが、これまでリカレント教育っていうとどうしても生涯学習のカテゴリーで見られてしまって、豊かな人生を歩むために趣味の延長上のような学びを進めるといった考え方だったような気がします。最近安倍総理もさまざまな機会でもリカレント教育っていう発言をなさいますけど、これは生涯学習ではなくて、どちらかと言うともっと攻めの学びの姿勢ではないかなというふうに思っております。ここで働き方改革にリカレント教育が入っているのですが、私はどちらかというところ9番の「生産性向上、イノベーション」のところはこのリカレント教育が入るべきではないのかなというふうに思っております。実際学校で学んで実際に働き始めても社会に出てしまうと学びの機会がなくなってしまって、世の中の技術の方がどんどん進んで人間が置いていかれていくような状況の中で、先ほど菊地委員からも10年後になくなる仕事が49パーセントというお話があったのですが、社会で働いていて気が付いたら自分の仕事がなくなっていたということがないように、やはり働きながらもきちんと学んでいける、そういうようなものをつくってあげること、生産性向上の、中核企業の育成だったりとか、農業の高付加価値化というところがあるんですが、実際働いている人、実際農業に携わっている人たちが内側から学びを進めて、自分たちが育っていく、そういった機会を与えてあげるといった形のリカレント教育ということがよろしいのじゃないかなと思いたしたので。この働き方改革のリカレント教育のところをもう一度どうでしょうか。どうしてこの働き方改革にリカレント教育が入ったのか私は分からなかったもので、その辺を整理していただきたいと思えます。

○奥村誠会長

ありがとうございました。お待たせしました。渡邊委員さんお願いします。

○渡邊浩文委員

申し上げたいのは「環境」っていうところでございまして、今私見ているのがワークシートです。資料等々を拝見すると、仙台は他の政令市に比べて真夏日が少なく真冬日も少ない、だから過ごしやすい気候なのだというふうに書いているんだとすれば、やや物の見立てが楽観的すぎるかなというふうに思っています。やはり仙台市民である我々は夏は暑くてたまらないと、冬は路面が凍って大変だともう身に染みているわけですし、そこをきっちり見ないといけないと思えます。特に夏ということと言いますと、仙台は他の都市と比べて高いのは湿度でして、そこが問題だということなのです。あと温度が高いのは昔は8月の第1週の1週間から半月程度だったものが、最近は5月から9月、下手すると10月まで暑くなってきているってこと。暑くなっている期間が長期化しているのです。ですので、過ごしやすい気候っていう見立てはやや楽観的すぎるんじゃないかという指摘が1つ。

それからそれに関連しますけれども、先ほどもご指摘ありましたが、その気候変化に対して低炭素っていうところがまったく不十分でございまして、そこをもっと強力に進めないとならぬと我々の5世代ぐらい後がたぶんおそらく最悪の状態になるのは、もう各方面で予測さ

れています。ただ一方ですね、この「環境」の部分に防災力というの、ある程度含めて見ようとしているのは、私はいいことだと思っていて、仙台は、これは不幸なことにといいべきですけれども自然災害に見舞われていますので、そういう意味では、仙台の方が世界的にも抜きん出て知っているわけですから、そこをやはりもっと大事に打ち出していくというところが必要ですし、ちょっと関連して脱線しますが、若者が東京に流出してしまうというふうな話だったり、支店経済とかって言われますけど、僕はそれをあまりネガティブには見ていません。やはりその新幹線で1.5時間っていうこの近さは地の利だというふうに思っています。戻りたい時に戻れるまちというところもあるわけです。防災ということで言えば東京、名古屋もそのうちに酷いことになる可能性があるわけですから、日本全体の中で仙台の位置付けっていうものを考える視点があってもいいのかなというふうに思っています。

「学び」のところやや抜け落ちていたのが、その小学校から高校までの初等中等教育の在り方。今のままでいいのかというところがやや気になっています。マイノリティーの方への配慮はもちろん必要不可欠ですが、いわゆるそのメインのボリュームゾーンのところをきちっとこれからの子どもたちをたくましく育てていかなければならないのはますます重要になるわけですから、そういった視点がちょっと抜けているなど思った次第です。

○奥村誠会長

ありがとうございました。他の人の話を聞いてまた言い足りないところがたぶんあるんだろうと思うのですけれども、これを始めると終わりませんので、時間になりましたので終了です。いろいろ出ましたので、事務局の方で議論を整理していただきまして次回に向けてですね、都市像、施策の方向性、たたき台をブラッシュアップして、新しいものにしていただきたいというふうに思います。

(4)その他

○奥村誠会長

本日の議事は以上で終了といたしますが、最後に事務局から連絡あればよろしくお願ひします。

○松田政策企画課長

手短に3点ほどご連絡申し上げます。

1つ目は、次回の審議会の日程ですが、お手元の座席表の裏面に今後の日程について記載しておりますので、後ほどご覧いただければと思いますが、日程と致しましては、年明け1月31日木曜日の午後6時から第3回の審議会を開催したいと考えております。場所は後日事務局から電子メール等でご連絡をしたいと考えております。

2つ目は、お帰りの際の建物の出口ですが、第1回と同じく北側玄関をお通りいただきたいと思ひます。

最後に、お出しした軽食ですが、よろしければお持ち帰りいただければと思ひます。

以上でございます。

3 閉会

○奥村誠会長

以上を持ちまして、本日の審議会を終了といたします。